魔法先生ネギま！　おろかな転生者に悩まされる原作主人公(ただし憑依)

翡翠　煉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法先生ネギま！　おろかな転生者に悩まされる原作主人公（ただし憑依）

【Ｎコード】

Ｎ８２９８Ｕ

【作者名】

翡翠　煉

【あらすじ】

原作の主人公に転生することになった彼・・・

まあ、幸せにすごせると思ったが・・・

弟がうざい。うざすぎる。

これは主人公（ネギ・スプリングフィールド）に憑依した主人公の、弟からの妨害に屈せず生きる話・

・・・かもしれない。

注意事項

注意事項

この話はよく見る、ネギま転生物です・・・が。

1ネギがアンチどころが憑依主人公。

これはまだあるんですよ。いろいろと見てます。

2弟が存在するが、弟は、ネギなんかうざい。殺して俺がハーレムしてやるぜ！　と思っています。

・・・これはひどいです。

だから、この小説の主人公は転生者であるネギ（に憑依した主人公）です。

・・・え？　転生前の名前？

・・・すいませんまだ決まってないです・・・

決まり次第本編に入ります。

主人公憑依前・・・

後のネギの弟視点

先ほど俺、五月雨　太一は死んだよな？

あれ？　死んだらこんなこと考えられなくね？

と・・・いうことは・・・

と、目を開けると、神様がいた・・・

キタアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア」

神「いきなり発狂しないでください」

なに、心を読まれただと！？

神「読めますけど声にも出てましたよ？」

それなら・・・俺って間違えて殺されたとかですか？

神「はい。上司の責任で・・・

で、とりあえずネギまの世界で主人公の弟に転生させることになりましたが・・・」

ネギまか・・・　あの薬味の弟か・・・

ま、本とにうざくなれば殺しますか。

で、チート能力とかもらえるんですか？

神「二つ能力を上げます。では、何がいいですか？」

なら、まずはアシスタント能力というので、いつでも好きに能力を使えるようにしてください。

神「チートですね・・・能力は劣化することを条件に認めます。もうひとつはどうします？」

知識で。あ、魔力は気はどうなるんですか？

神「知識ですね。いろいろと役立つ知識を入れました。あと魔力はもともと高いはずなのでそのままにして、気を強化しておきます」

よかった・・・

これで行くことになるのか・・・

神「では、いってらっしゃい」

よし、行くぞ！

神視点

神「・・・

私はとんでもない転生者を出してしまったかも知れません・・・

主人公を、うざくなれば殺すなんて・・・

それに、転生したら弟になるんですよ？

もしほんとにそうなったら・・・考えておかなければならないようですね・・・」

主人公憑依前・・・（後書き）

このとき、すでに彼は死亡フラグを立てていた・・・

作者はネギをそこまで嫌っていないためこれ以上へんなことといったら作者が黙ってはいなかった・・・

しかし・・・『ま、本とにうざくなれば殺しますか。』という一言で作者に喧嘩を売ってしまったのだ・・・

キャラクター一同「作者にかい！」

ＰＳ．９月３日、訂正しました。

茶番（前書き）

あと今回、書き方を変えれるように・・・頑張ってみます。

ただし自信はありません。

それとさっき逃走中のＤＶＤ見ました。浅草編です。

ネギ「それここで言うことじゃないですよね」

茶番

前回のあらすじ。

転生者がチート能力を持ってアーク・スプリングフィールドという名前で主人公、ネギ・スプリングフィールドの弟になった。

「ちょっと待て、前回この世界来る前に終わったから名前とか分かってないだろ」

地文に突っ込まないでください。

「ああ、わかってる」

分かってるなら突っ込むなよ・・・

そして、今はやっと悪魔襲来の約一ヶ月前になった。

では、視点交代なので後はよろしく。

ＳＩＤＥ　アーク

「おいおい・・・」

と、ナレーターは帰ったので俺の視点になったが・・・

俺は薬味暗殺計画を実行しようと思う。

理由は簡単。薬味が原作よりもうざくなってる。
俺が薬味に風邪をひかせて悪いことをさせないようにしても風邪が治ればさらに悪いことをするし、原作であった冬の湖に飛び込むイベントもあった。
ここでやはり消しとくほうがいいと俺は思った。

（分かっていると思うがそれはアークが悪い。）

と、暗殺計画の内容だが、簡単だ。
能力を使い、薬味を殺し、自分はアリバイを作る。
使う能力はまず、遠野志貴の直死の魔眼。これなら指紋も残らない。
そして　ザ・ワールドとテレポート。
こっちはかなり制限がかかっている。
まず、ザ・ワールドは時間を止めれる時間と範囲が小さい。
せいぜい半径５ｋｍしか時間停止が届かないし時間も３秒くらいしか止まらない。
テレポートのほうも、ある札を貼ったところじゃなければ移動できない。

その札はもうその場所に張ってあるからいいが・・・

「よし・・・　ザ・ワールド」

時間が止まり、俺は薬味の首を切る。

切り方が甘かったが、まあ、すぐに死ぬだろう。

俺はテレポートを使いこの場から離れた。

茶番（後書き）

あとがきトーク（なんかキャラが吹っ切れてます。多分）

煉「うわやっべ。やっぱこの書き方難しいわ。しかもほとんどしゃべってないし」

アーク「まて、能力あんなに制限かかっているのか」

煉「まあね」

アーク「にしても、マジで俺しかしゃべってないな。マジで作者下手だな」

煉「え？　ナレーターもしゃべってたじゃん」

アーク「それキャラじゃないだろ・・・」

煉「俺だよ？　ナレーター」

アーク「で、次回はどうなるんだ？」

煉「次回からが本編です！」

アーク「そうか。ところでなんで俺の名前がアークなんだ？」

煉「ＲＰＧＷ（・∀・）ＲＬＤのアークをふと思い出したから」

アーク「適当だな・・・」

主人公憑依（前書き）

遂に・・・主人公登場！

あ、これ原作重視ですよ？

主人公憑依

ＳＩＤＥ　神　　天界

「本当に大変なことになりましたね・・・」

まさか本当に殺すとは・・・

さすがにあれは荒いですけどいずれはネギは死んでしまいます・・・

どうすればいいのか・・・

ビー　ビー　ビー　！！

「！　これは！　反乱天使！」

まずいですね・・・

まさかこんなピンチが重なるとは・・・

ＳＩＤＥ　咲夜　　地球　〇〇県　桜市（架空ですしネギま世界でもありません）

「やっと今日で1学期が終わったか・・・」

俺は青木咲夜（あおきさくや）。ただの一般高校の2年生だ。あと名前は女っぽいが男だ。

「そうね！　明日から夏休みよ！」

彼女は水月奏（みなずきかなで）。俺の幼馴染だ。

「明日から何しようか・・・」

「早く勉強終わらせ・・・！　さ・・・咲夜！」

「どうした・・・かな・・・！」

目の前には、ナイフを持った男がいた。

「奏！　今すぐ逃げろ！」

「う・・・うん！」

奏は逃げてくれたが、俺はもう逃げれない・・・というか、もうナイフを持った男がナイフを振り下ろしかけていた。

ああ・・・俺、もう死ぬのか。

その後、俺は目を閉じ、痛みを感じたきり何も感じなくなった。

ＳＩＤＥ　神　天界

よかった・・・ぎりぎりであの人の魂の吸収を阻止できました・・・

さて、これからどうしましょうか・・・

・・・やっぱ・・・この場合も転生ですよね・・・

・・・！

そうだ・・・

この状況ならああすればいいではないですか・・・

ＳＩＤＥ　咲夜

・・・・・・・・・

・・・・・・・・・

・・・・・・・・・

・・・あれ？

俺、死んだんだよな？

それなのに・・・考えられるのはおかしくないか？

「おきてくださーい　おきてくださーい」

それに、声が聞こえてくるなんて・・・

「こんなの絶対おかしいよ！」

・・・ついあのセリフをまねして起きてしまったが・・・ここは・・・真っ白だな・・・

「おきましたね。それでは単純に言います。

1　貴方は死にました。神のせいではありません。

2　あなたにはネギま世界にネギスプリングフィールドとして転生してもらいます。

3　チート能力は3つですがひとつは制限させていただきます」

「・・・なんかいきなりいろいろといわれましたがもうちょっと詳しい説明お願いします」

「1については、反乱天使という、神を殺そうとする天使に貴方は殺されました。反乱天使は人間の魂を糧にしますので。

2についてはネギの弟として転生したものがネギを殺そうとしたためこちら側で困っているからです。

3についてはこちら側でひとつ追加させていただくので3つになります。基本は2つです」

「・・・一応分かりました。では、どうすればいいですか？」

「まず、チート能力を二つ決めてください。その後転生・・・というより憑依したらすぐに回復してください。こちらの指定チート能

力については回復能力超強化です。

ようするに回復についてかなり能力が強化されます。

では、そちらで二つ考えて欲しいのですが・・・」

「この本棚にあるのは能力ですか？」

「はい。まだ実験中ですが・・・」

「これにいい能力が3つあるので、ちょっと考えていいですか？」

まず、自由剣技。剣を自由に操れるみたいだ・・・

次に、キャラクタールーレット。これを使えばランダムにキャラになりきれるらしい・・・

次に、絶対数学。考えて何かをできるため、戦術を立てるときに大きく重宝する・・・かもしれない。

「あ、全部実験中なのでそれならそれ3つでも許されますよ」

なん・・・だと・・・

「それではそれでお願いします！」

「では、行ってらっしゃーい。あと回復忘れずに、ちなみに時間で言うと、悪魔襲来の約1ヶ月前ですよー」

すると、俺は穴に落ちるような感覚を味わった。

主人公憑依（後書き）

※反乱天使

人間を殺す天使。

人間を殺し人間の魂を使い力を貯め、神を殺そうとする。

天使がかってに人間界に降りる天使は、ほとんどが反乱天使である。

能力解説　ネギ＆アーク編（前書き）

煉「チート能力を解説します」

咲夜（ここでは咲夜はこの名前）「編をつけるということは俺たち以外も能力解説あるのか？」

煉「・・・てなわけで始めます」

咲夜「無視された！？」

能力解説　ネギ＆アーク編

ネギ・スプリングフィールド（元　青木咲夜）

能力

ソード・アーチャー（自由剣技）

剣を自由自在に多数飛ばせる。

特殊な剣なども使える。しかし能力は劣化している。

キャラクタールーレット

いろんなキャラクターになりきれる。

何のキャラになるかは運だが、はずれでもある程度はちゃんと戦える。

容姿については、自分2：そのキャラ1くらいな感じになる。

絶対数学

さまざまなことを計算できる。

とくに、ソード・アーチャーとの相性がいい。

回復能力超強化

回復についての全呪文が強化される。

さらに、自分の体の回復体質が強くなり、自然治癒も常人よりもかなり高く、回復呪文を自分にかければかなり回復できる。

アーク・スプリングフィールド（元　五月雨太一）

アシスタント能力

劣化しているが、さまざまな能力が使える。

知識

さまざまな知識がわかっている。

さらに、さまざまなことを覚えれる。

ようするに、脳に図書館があって自由に本を作れるかんじ。

特訓

ＳＩＤＥネギ

・・・いてて、これは痛いって！　治療！　治療！

って！

無詠唱で治療魔法使えたよ！

さすが転生の能力になるほどだ・・・

しかも・・・

「これはないんじゃないかな・・・」

普通治癒魔法で回復するのはあくまでも体だけだ。

しかし、切られた服までも元に戻っている・・・

あ、そういえばネギ本人はどうなんだろうか・・・

神は、ネギは刺されたと言ってはいたが、死んだとは言われていない。

もしかしたら、ネギを殺したのは俺になるのかもしれない。

たとえ偶然とはいえそうなれば最低でも俺には罪悪感が沸く。

俺にできることは・・・

ネギの変わりに、原作をやり遂げる！

（そのせいで何度か絶望します）

そのためには・・・

「特訓しましょうか・・・」

ＳＩＤＥ　アーク

ネギは死んだだろう。もしくは生きてても致命傷になっていると思う。

そうすれば生徒たちは危険にはさらされない。もとい、ネギに魔帆良に行かせたらどうしても厄介ごとに巻き込まれる。

ネギ・・・自分の人生に邪魔になると分かれば、それは兄であろうと手加減はしないからな・・・

お、ネギがいた・・・！？

な、なんだと・・・

なんにも怪我という怪我をしていないだと・・・

・・・能力・・・もう少し確認しておいたほうがいいな・・・

ＳＩＤＥネギ

・・・やつか。

やつがネギを殺したやつか・・・

・・・ま、殺しかえすとかはしないけどね。

だって、殺しちゃっても意味ないじゃんか。

さ、修行に行きますか。

森。

「よし、じゃあいきますよ！」

まずは絶対数学。

・・・次に行こう

自由剣技。

ソードアーチャーとなずけておこう。

1本だして・・・

「はっ！」

ズドン！

剣を目の前の木に刺さった。

消えろと思うとすぐに剣が消えた。

「こんどは！」

剣が目の前の木を回り後ろの木に刺さる。

「・・・これはすごいな・・・」

また剣を消えろと思い、今度はキャラクタールーレットを使う。

・・・これは・・・

「キャラになると微妙に服が変わるとは・・・」

これは・・・

「・・・だれ？」

俺はそのキャラが誰なのかはわからなかった。

・・・もしかしたら知っているキャラなのかもしれないが・・・

と、能力面より、筋肉的にトレーニングしたほうがいいと思うので悪魔襲来のときまで筋トレ中心のメニューをすることにした・・・

特訓（後書き）

煉「おつかれー」

咲夜「・・・あのキャラ誰？」

煉「・・・悪魔襲来のときに分かるよ」

悪魔襲来（前書き）

咲夜「・・・前回タイトルって、確認のほうがよくね？」

悪魔襲来

ＳＩＤＥ　アーク

「・・・あれは・・・悪魔！」

原作のイベント、悪魔襲来が来た！

ここで俺が無双してやる！

と、考えていた時が私にもありました。

・・・後日談だが、結論を言おう。

いかに転生者でも、負けるときは負ける。努力を忘れるな。

もしかしたら、ネギを殺そうとした罰かもしれない。

・・・少し考えて、身振りを考えておこう・・・

悪魔襲来の日に戻る。

俺は森にいたときに悪魔の大群を見つけたから村にこさせないために悪魔を倒そうとした。

最初は倒せていた。

ある敵は剣で一刀両断。違う敵には魔法で吹き飛ばす。

雑魚にはさまざまな技を駆使し能力に慣れれるように使った。

しかし、使いすぎると能力が薄くなる可能性も考え、慎重に能力を使った。

だが、それでも無双ができた。

しかし・・・

ヘルマンは、雑魚とは桁がさすがに違った。

さすが伯爵級といいたいところだが、原作よりも強くなっていた・・・

ネギ・・・俺が殺そうとしたときはどうにかなったようだが、今回は覚悟しろよ・・・

お前は下手すれば死ぬぞ。

ＳＩＤＥ　ネギ

そろそろ悪魔が来る・・・かもしれないな・・・

これまで覚悟はしていたが、すでにいつ来るかはわからない。

それに神が言ってた1ヶ月がすぎたため、もういつ来てもおかしくはない。

・・・！　悪魔が来た！

町に入れてたまるか！

俺は町の外に出て森の中から剣を飛ばす。

悪魔を少しずつ倒していく。

しかし、思ったより数が少ないな・・・

！　きずかれた！

「ここにいるのか」

下級だけなら何とかなるが、伯爵級の悪魔であるヘルマンは強い。

能力で何とかなるかもしれないが油断は絶対にできない。

「・・・数が思ったより少ないな・・・」

「どこかからお前くらいのやつに襲撃されたからな」

「そうか・・・」

やつが戦ったのか。となると・・・
やつは・・・とても強い！

「食らえ！」
「きかんよ」
放った剣はヘルマンに簡単によけられる。
「もう一回！」
「いくら数を増やしてもきかんよ」
さっきのようにヘルマンはよける。
ニヤリ
「曲がれ！」
「なんだと！」
数を後ろからかなりの数を撃てばあたる。
しかも拡散させたからこれなら当たる・・・かもね」
「自信がないようだね。正解だ」

途中で声が出ていたようだ。まあ、さすがに避けられたか。

「こうなったら・・・ルーレット！」

・・・初めて能力を使ったときと同じキャラになった。

結構な確立でこのキャラが出て来るんだよな・・・

上条当麻が・・・

「容姿が変わったようだが？」

「そうですね。まあ、気にしないでください」

「・・・そろそろ君には休んでもらおうか・・・」

「いきなりですね・・・」

「まあ、永久石化とはいえいつか戻るさ。そうだな・・・２００年位かな？」

「そうですか。それじゃあやってみてくださいよ」

「・・・何か策があるようだな・・・」

「・・・どうでしょうかね？」

「だが・・・そろそろ終わろうか・・・君の父親が来てるからな」

「・・・まだ何もおきてないのに何で来たんだよ・・・」

「子供の危機に敏感というところかの？　といえど余裕があるようだがな」

「・・・それでは、この勝負は持ち越しということで」

「そうだな。それでは、少し気絶してもらっておこうか」

といわれ、俺は殴られて気を失った。

悪魔襲来（後書き）

伯爵級を変換したら伯爵？になって笑えた。

咲夜「お前のバトルの下手さは分かった」

煉「あ、ばれた？」

そして舞台は麻帆良へと（前書き）

前回、ネギは能力の反動で倒れるはずだったんだけどな・・・

あとアークが予定とは違うキャラになりそうだな・・・

それはそれでいいかもしれないけど

そして舞台は麻帆良へと

ＳＩＤＥ　ネギ

どうも、ネギです。

きずいた時には知らない街にいた。

手には例の杖を持っていた。

・・・ああ、そういうことか・・・

結局街は襲撃され、その後ナギが悪魔を倒す。

倒れてる俺を見つけてナギは俺に杖を託した・・・

多分、こんなところだろう。

ＳＩＤＥ　アーク

・・・

俺はナギに杖を渡された・・・

最初はだめな父親だと思っていた。

しかしそれは事情を知らなかったからだ。

この、世界に来て、俺は俺の親のナギの事情を考えてみた。

俺はこう思った。

戦争はまだ終わっていないから、一緒にいると子供に余計な危険がくるのではないか・・・　と父親であるナギは思っているのでは・・・？

そう思うと、戦争って本当に悲しいな・・・

・・・よし、まずは修学旅行に向けて特訓だ！

ＳＩＤＥ　３人称

そして、魔法学園に通い始めた二人・・・

そして・・・時は

すでに卒業となっていた！

二人（早っ！！）

ＳＩＤＥ　ネギ

と、言うわけですでに例の紙を持ってるんだが・・・

はい。もちろん日本で教師をやることでした。

ちなみにアークもそうでした。

で・・・

「と、言うわけで日本に行って来ます。アークとネカネさんにはすでに言いました」

「って、もう！？」

アーニャが驚いている。

「仕方ないよ。事前知識があれば有利になるからね」

「そうだけど・・・」

「てなわけで、行って来ます！」

さて、原作が始まるぞ・・・

そして舞台は麻帆良へと（後書き）

ここで皆さんに質問です。

近々やる予定の、番外編で、どの話が見たいですか？

1　博麗霊夢が２－Ａ（３－Ａ）にいたら。

2　翡翠煉オリキャラ＋α最強王決定戦ｉｎ麻帆良武道会

3　麻帆ラジオ

4　ネギたちのスーパーマリオブラザーズ

5　ＶＳ嵐みたいなの

6　これはどう？（アイデアを求めます）

麻帆良への道（危険度０）（前書き）

つなぎの話になります。

あとほとんどセリフありません。

あと短いけど文句いわないでね。

麻帆良への道（危険度０）

ｓｉｅｄアーク

みなさんこんにちは。

ついに作者が「すまん。お前は悪いやつじゃなくすよ」と、いわれた感じがするアークです。

さて、ここで問題です。なぜネギだけが麻帆良に行ったでしょうか？

あ、こっちもそういう指令ありますよ。

というか、だいたい同じ。

え、答え？

ああ。風邪。ひきました。なさけないとおもっています。

だから治ってからいくしかありませんね？？？

ネギがへんなフラグをたてませんように。

あ、やべ。これフラグかも。

ｓｉｅｄ　ネギ

あ、やべ、だれかにフラグたてられたきがしてきた。死亡フラグじゃなきゃいいけど。

さて、いつの間にか日本についていましたし、麻帆良にへと行きますか！

といい、タクシーにのりこみ、原作を考える。

まず、最初の試練は？？？

図書館島とおもうが、止めればいい。はいおしまい。

つぎはエヴァ。

？？？原作にながされますか。

修学旅行

明日菜さんには京都をたのしんでもらう。もとい別ルートでいて？？？あ、どうせむだじゃん。こっちは原作者にながされると危険かもしれないし？？？

？？？よし、修学旅行が問題なら、それに向かっていくぞ！！！

そして、少年は麻帆良学園都市へと？？？

麻帆良への道（危険度０）（後書き）

？？？このさきのオリ要素。どっちからやるべきか？？？

その発想はなかった　前編（前書き）

これまでのサブタイトルがあまりよくないと思いました。

その発想はなかった　前編

ｓｉｄｅ？？？

原作が始まるまであと？？？半年もない？？？いや、３学期からくるからさらに約半分か？？？

面白そうだからここにはいたがはたしてどうなるのか？？？

私は自由に実験ができればそれでいいんだがな？？？

さて、来るのを楽しみしてるぞ。ネギ？スプルングフィールドよ。

ｓｉｄｅネギ

「やっぱりここってかなり大きいところだな？？？」

と、いうわけでやってきました麻帆良学園都市。

さて、どうしましょうか。

？？？うん。今時間的に授業やってるな。多分。

とりあえず、町を歩きまわって時間を潰しますか。生徒に声をかけておきたいと思いましたが？？？！

ある人影を見てすぐに身を隠す。

「なんでエヴァンジェリンがこんなところにいるんだよ？？？」

ｓｉｄｅエヴァ？

？？？ん？

あれは？？？！

ばかな？？？なんでこの時期にあいつがいる！？

まさかあいつもか？？？？

これは？？？どうなるか楽しみだな！

「お前？？？何者だ？」

ｓｉｄｅネギ

どうやら、見つかっちゃったようです。

しかし原作と違った反応ですね？？？まさかまだこっちの事を知らないのか？？？

「あなたはだれですか？」

「わかって言っているだろ」

ばれてました。

「ネギ？スプリングフィールドです」

「いや、そんなことを聞いているのではない。

お前は？？？

私と同じ憑衣者だな？」

その発想はなかった　前編（後書き）

憑衣の衣のほうは今使ってるのでは字がなかったので代用しました。

その発想はなかった　中編（前書き）

これがやりたいがだけに中編を作った。

その発想はなかった　中編

ｓｉｄｅネギ

え？？？今？？？なんと？？？？

憑衣者だって？？？？

エヴァンジェリンも？？？というと？？？

彼女は？？？どんな立場だろうか？？？

ｓｉｄｅ　エヴァ

お、考えてるな？？？

だが、とりあえずは？？？

「まあ、詳しい事をそこのカフェででも話そうじゃないか」

さて、憑衣したお前。お前はどんな立場なんだ？

ｓｉｄｅ　ネギ

エヴァンジェリンは俺を逃がさないためにカフェにさそった。

しかしこちらも話を聞くことができる。

なにかあれば能力で逃げれるが？？？

相手はどの様な能力を持ってるかも分からないからな？？？

はたして信用してもいいのだろうか？？？

「僕は憑衣者です」

そうエヴァンジェリンに告げた。因みに現在認識阻害の結界をはっているので他の人にきかれることはない。

「やはりな」

「どうしてわかったんですか？」

「簡単だ。まず、この時期には本来お前はいない。そして、この時期には私のことをお前は知らない。このふたつで十分だろ」

そういうことか。

たしかに彼女を知らないのにいきなり隠れるのはおかしい。

たしかにそれは盲点だったな？？？

「で、なぜお前はそうなったんだ？」

そうなった？？？どうして憑衣することになったか？？？

ということか？？？

「簡潔に述べると、［俺］は革命天使っていう神をころそうとする天使が糧を手に入れるために幼なじみを殺そうとして、それをかばって死んだ。［ネギ］のほうは、転生者である弟に刺されたらしい」

「そうか？？？！　弟だと！？」

「ああ、転生者だ」

「で、そいつは危険か？」

「いや、おれが憑衣してからはなにもしてないのになにも無くなったからなんとも言えない」

「そうなのか？？？」

「ところで、そっちは？」

「ああ、［私］は発明に失敗して死んだが、［エヴァンジェリン］はかなり下らない理由で死にかけて？？？だから、私はこうなった」

「下らない？？？ですか？」

「ああ、あんなかんじに？？？」

ｓｉｄｅ　３人称

５０年前

神は、忘年会をやっていて？？？

「第３５１回、賞品ダーツ大会！！！」

「「「ワーワーワー」」」

「と、いうわけでデウス様、最初にどうぞ」

「うむ」

といい、デウスはダーツ板にダーツを投げる。

が、

ヒューーー

「あ？？？外れましたね？？？」

「まあ、こんな事もあるわい」

「さて、ダーツを回収しますか？？？？？」

「？　どうしたのじゃ？」

「？？？刺さってます！ネギま世界のエヴァンジェリンにダーツが刺さりました！！」

「な、なんじゃと！？」

説明するが、今回のダーツは、本来のダーツよりも１００倍の大きさを持つうえ、天銀という、とても特殊な鉱石をつかってつくられている。

そうして、エヴァンジェリンは唐突に死にかけた？？？ということだ。

時はもどり？？？

ｓｉｄｅ　ネギ

「くだらなさすぎる！！！？？？」

「で、偶然タイミングよく私が死んだから、こうなったの」

「？？？」

エヴァンジェリン？？？災難だったな？？？

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8298u/

魔法先生ネギま！　おろかな転生者に悩まされる原作主人公(ただし憑依)

2011年10月16日19時46分発行